



生協連会報

2025

11



NO.547

<活動報告>

第1回職域生協部会開催報告	2
第30回千葉県協同組合女性交流会開催報告	3
千葉県生協連政策検討会開催報告	4
第46回九都県市合同防災訓練 物資輸送訓練報告	6
第3回食・消費者委員会	7

<関連団体>

消費者団体千葉県連絡会視察見学会	9
------------------------	---



「家庭内の事故から、子どもを 守ろう!」 学習会

高所からの転落事故、誤飲や重度の火傷など、
家庭内で発生する子どもの重傷事故が後を絶ちません。
家庭内、生活の場で発生する子どもの事故を防ぐため、
どのような視点や対策が必要なのか、学んでみませんか？。



講師

Safety Kids いずみ代表
太田 由紀枝さん

アメリカ・ニューヨーク州で「こどもの安全は社会の最優先事項」が実践されている地域での子育てを経験。帰国後、小児科医 山中 憲宏先生と出会い、2014年NPO法人 Safe Kids Japanを設立、10年間事務局長を担う。現在は、地元横浜市内で活動中。



2025 年国際協同組合年
認定事業

主催：千葉県生協連

共催：千葉市

生活協同組合

パルシステム千葉

生活協同組合

コープみらい

生活クラブ生活協同組合

なのはな生活協同組合

後援：淑徳大学

◆ 4 会場で開催します！どなたでもご参加いただけます。

- ① 日時 2025 年 12 月 6 日(土) 10:00~14:00 (予定)
会場 パルシステム千葉 子育てフェスタ
ペリエホール (千葉市中央区新千葉 1-1-1 ペリエ千葉 7 階)
- ② 日時 2025 年 12 月 17 日(水) 10 時 30 分~12 時
会場 稲毛保健福祉センター3 階大会議室
- ③ 日時 2026 年 1 月 17 日(土) 10 時 30 分~12 時
会場 パルひろば☆ちば
- ④ 日時 2026 年 2 月 15 日(日) 10 時 30 分~12 時頃
会場 コープみらい きやっせ物産展 2025 幕張メッセ国際展示場 9 ホール

申し込み 千葉県生活協同組合連合会HP
<http://www.chiba-kenren.jp/>
もしくは、こちらのQRコードから



くわしくは、ホームページをご覧ください。

平和の懇談会

「平和」について 次世代継承の あたらしいかたち

ARコンテンツを駆使した「もし、渋谷に核が落ちたら」
など、今までとは全く違う方法で、核兵器の恐ろしさを
伝えている中村涼香さんの取り組みを聞いてみよう。



お申込みは
こちら

2025年12月19日(金)
9:45-11:45

千葉県教育会館604会議室
千葉市中央区中央4-13-10



中村涼香さん

2000年長崎県生まれ。被爆地の外での
アクションをさらに広げるために東京を
拠点とした「KNOW NUKES TOKYO」
を設立。被爆体験を継承するために企画
した「あたらしいげんぱく展」は20社
以上のメディアに取り上げられる。
NPO法人ボーダレスファウンデーション理事

お問合せ：千葉県生活協同組合連合会TEL:043-224-7753

千葉県生協連の主な活動予定 2025.11～2026.1

11月			12月			1月		
日	曜		日	曜		日	曜	
1	土		1	月	こどもたちに平和な未来を 2026第1回実行委員会	1	木	
2	日		2	火	中央地連MCA無線訓練	2	金	
3	月		3	水	食糧・農業・環境を考えるセ ミナー	3	土	
4	火	県連MCA無線	4	木	第4回食・消費者委員会	4	日	
5	水		5	金	大規模災害対策協議会	5	月	
6	木	サポ・ちば第3回理事会	6	土	「子どもの事故防止」学習会 ①	6	火	県連MCA無線
7	金		7	日		7	水	
8	土		8	月		8	木	
9	日	IYC2025記念企画「千葉県協 同組合提携協マッチデー」	9	火		9	金	
10	月		10	水		10	土	
11	火		11	木		11	日	
12	水	消費者団体千葉県連絡会第3 回代表幹事会	12	金	地域生協部会・千葉県生協連 視察研修	12	月	
13	木		13	土	地域生協部会・千葉県生協連 視察研修	13	火	
14	金		14	日		14	水	
15	土		15	月	環境学習会	15	木	
16	日		16	火		16	金	
17	月	地域・まちづくり委員会	17	水	「子どもの事故防止」学習会 ②	17	土	「子どもの事故防止」学習 会③
18	火		18	木		18	日	
19	水		19	金	平和の懇談会	19	月	
20	木	環境生活部と県連役員との施 設見学会・第4回理事会	20	土		20	火	
21	金		21	日		21	水	
22	土		22	月		22	木	第5回理事会
23	日		23	火		23	金	
24	月		24	水	フードドライブ実行委員会	24	土	
25	火	中央地連運営委員会	25	木		25	日	
26	水		26	金		26	月	地域・まちづくり委員会
27	木		27	土		27	火	
28	金		28	日		28	水	
29	土		29	月		29	木	
30	日		30	火		30	金	次世代との交流会
			31	水		31	土	

2025 年度第 1 回職域生協部会報告



日 時 2025 年 10 月 15 日（水）10：00 ～ 12：00
会 場 千葉大学生協事務所
出 席 丹波（千葉県庁生協）、筒井（学校生協）、柴崎（千葉大学生協）、
（継承略） 有吉（東邦大学消費生協）、玉木（千葉商科大学生協）、
山崎（日本生協連職域生協事務局） 尼崎・竹内（千葉県連）

内 容

1. 部会長の互選

千葉県生協連の尼崎専務の進行により、部会長の選出をおこない、千葉県庁生協の丹波事務局長が選任されました。

2. 千葉大学西千葉キャンパス内千葉大学生協店舗の見学

千葉大学には、西千葉、亥鼻、松戸、柏の葉、墨田区にキャンパスがあり、生協店舗は西千葉、亥鼻、松戸のキャンパスにあります。本日は千葉大西千葉キャンパス内にある大学生協のブックセンター、ライフセンター、売店、フードコート等を同生協柴崎専務に案内していただきました。

3. 2025 年度上期事業状況と下期の課題について

2025 年度上期事業状況と下期に向けた取り組みや課題、部会で共有したいことなどの各生協の報告を聞き、意見交換をおこないました。

4. 千葉県生協連からの報告

地域生協部会の議事内容の紹介、3 月末卒業予定の学生に配布するチラシのリニューアルのほか、千葉県生協連がおこなう企画紹介がありました。

5. 第 2 回部会の日程・内容について

日時： 2026 年 3 月 13 日（金）10：00～12：00

内容： 決定次第皆さんにお知らせいたします。



キャンパスマップをみながら構内の説明。

総合学生支援センター入口のホール。
奥は椅子や机があるフリースペース。



ブックセンターでは千葉大工学部の前身、東京高等工芸学校の卒業生、やなせたかしフェアが開催中。

第 30 回千葉県協同組合女性交流会 開催報告

国際協同組合年
2025
協同組合はよりよい世界を築きます



日 時 2025 年 10 月 11 日(火) 10 時 30 分～14 時 00 分 ※2025 年国際協同組合年認定事業
会 場 千葉市消費生活センター 3 階 実験実習室
参加者 千葉県生協連 13 人・JA 千葉女性部協議会 15 人
千葉県漁協女性部連絡協議会 13 人
計 41 人 (事務局・講師含む)
主 催 千葉県生協連、千葉県漁協女性部連絡協議会、
JA 千葉女性部協議会、千葉県協同組合提携推進協議会



第 30 回千葉県協同組合女性交流会が開催され、千葉県生協連から地域生協の組合員理事と事務局、13 人が参加しました。

この女性交流会は、農林水産業及び、生産現場での体験や暮らしに共通する課題の話し合い等の交流を通じて、生産者と消費者が相互に交流することを目的として、毎年開催するものです。持ち回り開催のため、今年度は JA 千葉女性部協議会が主幹事務局となり開催しました。今年度は 30 回の周年であり「2025 年国際協同組合年」でもあるため、千葉県の伝統料理である太巻き寿司作りを通じて、米の利用促進と協同組合女性組織のつながりを深めました。



今回作ったお寿司 左：五色巻 右：コスモス



初めに、JA 千葉女性部協議会 伊藤はつ子会長からご挨拶いただきました。「2025 年国際協同組合年」について、ご紹介いただきました。



最初は、卵巻きのコスモスを作りました。最初の作業は、専用の玉子焼き機で、卵焼きを作る作業です。JA 千葉女性部協議会の先生に教えていただきながら、上手に焼くことができました。



講師の先生作 左：パ...

先生の説明を聴きながら、皆さん、慎重にそして上手に巻けました。



《参加者の感想》

- ・太巻き寿司作りをすることで、あらためてお米の大切さや千葉の食文化に触れられて、良かったです。
- ・他の協同組合の女性の交流会、とても良いとおもいます。横のつながりを大切にしたいですね。
- ・普段なかなか会えない、JA や漁連の皆さんとも一緒に取り組めて、とても楽しかったです。

2025 年度千葉県生協連政策検討会開催報告



日 時：2025 年 10 月 22 日（水）12：30～15：30

会 場：ホテルポートプラザ千葉 2 階「ロイヤル」①

参加人数：7 会員生協 57 名（講師、事務局含む）



政策検討会は、次年度の活動の一助となるよう時宜に適ったテーマを取り上げ、会員生協とともに学び合うものです。今年度のテーマとして「環境」「持続可能な社会」を取り上げました。（文責・概要まとめ：事務局）

開会挨拶（抜粋） 千葉県生協連 会長理事 打越和佳子

本年 2025 年は、国連が定める「国際協同組合年」です。私たち生協が果たすべき役割は、ますます大きくなっています。本年を契機に、県内生協、県内の協同組合とともに課題解決や社会発信に取り組み、県内における生協の価値を高めたいと考えております。

今年度は高村ゆかり先生をお招きし、達成年の後も見据えて持続可能な社会、安全で安心な暮らしのために生協として何ができるかを学び、参加者で考え合いました。

《講演》 「持続可能な社会づくりに向けた世界と日本の動きと課題～生協への期待」(抄)

講師 東京大学未来ビジョン研究センター教授 高村ゆかり先生

◆ 異常気象の「現実」：もはや未来の課題ではありません。

- ・今年の夏（6～8 月）は日本の観測史上最も暑く、直近 6 年間で年平均気温の上位を占めています。2024 年の世界平均気温は、産業革命前比で「1.5℃」を超過、国際社会が目指す「1.5℃未満」という目標達成は極めて困難な状況です。また、2019 年に千葉を襲った台風 15 号による大規模停電や、台風 19 号による全国 146 ヶ所の河川決壊など、近年の災害は激しさを増しています。



◆ 災害の「上乘せ」と生活への影響

- ・今、温暖化による被害の拡大が言われています。最新の研究によれば、台風 19 号の雨量は、温暖化がなかった場合と比較して約 13.6%「上乘せ」されていたと評価されています。この「上乘せ分」が防災の想定を超え、生活に様々な影響を及ぼしています。
- ・自然災害の増加・不透明化を理由に火災保険料は 2013 年以降 4 回も引き上げられるなど、「経済的損失」を生み出しています。
- ・今年の熱中症による搬送者は 10 万人を超え、その 6 割以上が高齢者です。また、屋外で働く人々の健康と安全も、猛暑によって深刻なリスクに晒されています。
- ・生物多様性の損失、水不足、コメの品質低下や収量減少など、食料安全保障にも直結しています。プラスチック問題も海洋汚染、生態系への影響に加え、化石燃料を原料とすることで気候変動も加速させる、複合的な問題の典型例です。

◆ 「グリーン・トランスフォーメーション（以下 GX）」：気候変動対策は社会課題解決に

- ・日本が目指す 2050 年の CO2 排出ゼロ社会は実現可能です。削減の 8 割は「再生可能エネルギー」「省エネ（効率改善）」「電化」という既存の 3 つの技術で達成できます。

- ・GXは、単なる気候変動対策だけが目的ではありません。「エネルギー安全保障」の面では、国内の再生エネルギー利用で克服できます。また、輸出による利益（約30兆円）の大半（約26兆円）が燃料輸入費として海外に流出する構造を変え、「国内経済の活性化」が図れます。他にも東京都の太陽光パネル設置義務化などの「省エネ性能の高い住宅」（ZEH）（室内温度差をなくし「健康（血圧低下など）」にも寄与）、千葉県睦沢町の「レジリエンス（災害対応力）」、千葉県匝瑳市の「農業再生」などの事例も挙げられます。

◆生産者と消費者を「つなぐ」力に期待します。



- ・生協の強みは、地域に根ざした「生活者」自身が運営している点にあると言えます。
- ・生協が持つ「生産者と消費者をつなぐ」力は、気候変動時代において非常に重要なものとなります。気候変動対策を「地域の課題（防災、健康、農業の担い手不足など）を同時に解決するチャンス」と捉え、生協の強みを活かして何ができるかを考えていただきたいと思います。

《活動報告》 3生協から環境に関する活動報告をいただきました。

1. デポー発『エコな取り組み』 生活クラブ生協理事 本橋美里さん、竹原久美子さん 店舗（デポー）におけるプラスチック削減（脱プラ）の取り組み

2. 2025年度環境推進活動 パルシステム千葉 総務部部長 古橋賢一さん 配送車をガソリン車からEV車に転換するなど、環境負荷削減の取り組み

3. 「ビーチクリーンの取り組み」 コープみらい理事 高山由美子さん、 千葉3区ブロック委員長 村田綾さん 千葉4区ブロック委員長 高橋有美子さん 千葉5区ブロック委員長 鈴木智恵さん 組合員や漁協、地域などと連携しておこなったビーチクリーンの取り組み

グループディスカッション後の全体交流を受けて、高村先生にまとめの言葉をいただきました。

〇まとめの言葉

- ・社会を変えるには多くの人の行動変革が必要であり、生協はその受け皿として、産直などで培った力をさらに発揮してほしいと思います。また発電事業に限らず、米や野菜などの「ものづくり」においても、生産者と協力して「持続可能な生産方法」を追求できることを意味します。こうした取り組みは、生産者には付加価値（競争力）となり、生協には事業全体の環境負荷低減につながる「Win-Winの関係」を築くことができます。

最後に「生協は、社会（特に消費）を変える本当に大きな力を持っている」と強調され、ポテンシャルを活かした今後の活動に強く期待しています、と結ばれました。

参加者の感想

- ・脱炭素社会に向け、「生協は『（商品や活動など）選択肢の提示』『持続可能な生産』『協同の力』で、消費行動、社会を変えられる」との言葉に、強く励まされました。
- ・各生協の活動事例をどのように自分の活動に活かせばよいかと考えてしまいましたが、先生のまとめの言葉でたくさんの気づきを得ることができました。
- ・環境問題は、生協の枠を超えて取り組むべき課題だ、と捉えました。

第46回 九都県市合同防災訓練 物資輸送訓練報告



10月26日（日）、館山市を会場に開催された第46回九都県市合同防災訓練（千葉県会場）の物資輸送訓練に参加しました。

第46回九都県市合同防災訓練は房総半島南端に位置している館山市の特性を考慮し、水難救助や津波避難に係る啓発を併せて実施し、令和6年能登半島地震や令和元年房総半島台風を始めとした令和元年の風水害による災害対応で課題となった項目を盛り込んだため、2日間に分けて開催し、10月19日（日）に災害対策本部運営訓練や応急救護訓練、防災フェア等をおこない、10月26日（日）に災害ボランティアセンター設置運営訓練、物資輸送訓練をおこないました。

今回の物資輸送訓練は東京都、埼玉県、神奈川県等の近隣の自治体から支援物資が届き、届いた物資を物資集積拠点から指定された場所に搬送するという内容でした。訓練にはトラック協会、AZ-COM、佐川急便等の企業が参加し、千葉県生協連からは生活協同組合パルシステム千葉に参加してもらい食料を搬送しました。



館山市役所で物資の荷下ろしの様子

2025年度第3回食・消費者委員会

12 つくもたね
つやうなほ

日 時：2025 年 10 月 30 日（木）10：00～11：30

会 場：千葉県消費者センター 2 階 「研修室 1」
〒273-0014 船橋市高瀬町 66-18

出席者：山本(なのはな)、神野・黒崎(パルシステム千葉)、
(敬称略) 松山(コープみらい)、深町・中井(生活クラブ)、
事務局：尼崎・依光(県生協連)



千葉県消費生活センター：始関曜子所長(写真左)、田畑英典次長(中央)、沖本孝史副主査(右)
榎谷かおる消費生活相談員、青木順子消費生活相談員

内 容： 2025 年度第 3 回食・消費者委員会は、千葉県消費者センターを訪問しました。

1. 千葉県消費生活センターの役割・国内や県内の消費者被害の状況について

講義① 千葉県消費者センターの役割と取組

千葉県消費者センター 副主査 沖本孝史さん

消費者センターは法律に基づき設置され、商品・サービスのトラブルや製品事故の相談窓口として、主に、相談者への助言、事業者とのあっせんによる解決支援、トラブル防止のための情報提供・啓発をおこなっています。県全体で年間約 5 万件の相談の内、60 代以降の高齢者の相談が約 3～4 割を占め、インターネット関連の相談が大幅に増加しています。

このような相談対応だけでなく、市町村の相談支援、啓発活動（YouTube 動画の制作・活用など）、商品テストなどもおこなっています。高齢者を支える見守り活動（行政連携を含む）を積極的に推進しています。

2. 最近の相談事例より

千葉県消費者センター消費生活相談員 榎谷かおるさん・青木順子さん

- ・ 台風後の屋根工事や、分電盤や給湯器の点検・交換、トイレの詰まりなどのレスキュー商法など、不安をあおり高額な工事費で即時契約を迫る手口が流行しています。また、インターネット・デジタル関連では、定期購入や未成年者のオンラインゲーム課金が増えており、また暗号資産や SNS を介した投資詐欺は特に深刻で、被害額は数千万、数億円と高額になりがちで暗号資産の場合は被害回復が極めて困難です。

3. 生協の事例紹介と意見交換

参加した委員（生協）から、活動を通じた消費者問題への取組状況を報告しました。

- ・ 地域活動の場で組合員同士が訪問販売などの被害について話題に上ることや、配達担当者による「見守り活動」をおこなっていることなどが、話されました。組合員への消費者被害に関する啓発や、消費者課題の視点からの高齢者の見守り活動、「配達担当者の消費者被害に関する意識」を高める必要があることも、話されました。
- ・ 懇談の中では、千葉県と生協連の間で進めている「広報媒体を通じた消費者問題の注意喚起」や「見守り活動」における連携を強化し、生協が持つ家計相談や生活費貸付などの場を利用するなど、消費者被害を多角的に防ぐためのさらなる情報連携と啓発活動が進められるのではないかと意見もありました。



まとめ・文責：事務局

2. 各生協からの報告

○コープみらい

- ・3回連続講座のコープみらいカレッジを「君津」キャンパスを開校し、1回目は減災マップシュミレーション、2回目は災害時のトイレの備えについて学び、交流しました。3回目となった10月2日は防災クッキングを行い、長期保存可能食品を使ったメニューを調理し「災害時でも栄養バランス良く美味しく食べる事の大切さ」を学びました。3回の企画とともに学んだ仲間ということもあり、和気あいあいと楽しみながら調理や試食を通して防災について考える機会となりました。

○パルシステム千葉

- ・10月13日(月)野田市こども食堂利用者向けの直営農場パルグリーンファーム収穫体験を開催しました。参加者は50人(14家族、大人23人、子ども27人)野田市子ども食堂ネットワーク14団体中7団体の子ども食堂の利用者が参加しました。親子でチンゲン菜とお芋の収穫体験と、パルグリーンファームの野菜を使った、菜飯おにぎり、豚汁、小松菜のおひたし、ルッコラの和え物を試食して頂きました。参加者から「野菜を切るとシャキシャキと音がして楽しかった」「いっぱい採れてよかった」「とにかく楽しかった」など声を頂きました。親子で今晚のメニューについて、収穫すべきものなど話し合う様子なども見られました。親子で実際に食材を食べることで食育がより良いものになると感じました。

○なのはな生協

- ・7月22日に夏休み親子企画 菅谷食品の納豆づくり体験を行い、藁で作った納豆の出来上がりがとても楽しめと皆さんおっしゃっていました。また試食のバター&メープルシロップ納豆トーストは意外性があり、とても好評でした。
- ・9月12日にはエリアで活動しているスタッフを対象に組合員活動交流会が行われ、共生食品のお豆腐作り体験を企画しました。
- ・10月10日は商品普及のための試食会なのはなdeランチ。体験型イベント食を伝える活動としては、9月13日こうざき自然塾稲刈り体験、10月25日みみずの学校秋の収穫体験。稲刈りは途中から雨、収穫体験は朝から雨での開催でしたが予定を変更無事に終えることができました。組合員は雨でもよい体験ができた后感想を頂きました。
- ・食に関する3連続講座のうち1回目の添加物、2回目のゲノム編集・遺伝子組み換えが終了し、講座に関連するブックレットも販売しました。

○生活クラブ生協

- ・8月30日に 田んぼの学校を開催。ちばあさひ米の圃場で稲刈り体験を行い、生産者と交流しました。また、9月6日～7日に理事研修で、千葉県内の3生産者(①タイヘイ(株)150年前から受け継がれる木桶での丸大豆しょう油醸造、②千葉県漁連、③新生酪農(株)生活クラブ自前の牛乳工場)を見学しました。
- ・9月、10月に、牛肉学習会(北海道チクレン農業協同組合連合会)、豚肉学習会(平田牧場)を消費委員会主催や各ブロックで開催。生活クラブで取り組むそれぞれの目的、飼料、飼育環境、取り組み品を確認し、生産者と組合員で試食時間に交流しました。生活クラブのルールをもとに県連で学習した食中毒対策を意識しながら開催できました。
- ・各地で「デポーまつり」(店舗)をおこないました。地域の方にも周知し、提携生産者と消費材を伝える活動や、輪なげなどの遊びもおこないました。

以上

【消費者団体千葉県連絡会主催】

2025 年度視察見学会

いすみ市「オーガニック給食の取組」視察学習会



日 時：2025 年 10 月 7 日（火）10：00～17：00

会 場：いすみ市 つどいの家 有機農業生産者圃場

参 加：千葉県母親大会、新日本婦人の会千葉県本部

花見川団地自治会、習志野団地自治会、

千葉県民主医療連合会、千葉県商工団体連絡会

生活協同組合パルシステム千葉、千葉県生活協同組合連合会 計 17 名



概 要：

2025 年度は、いすみ市行政を訪問し、全国的にも注目されている「有機農法での地場の
お米や野菜を使ったオーガニック給食」について、学習しました。

当日は、いすみ市農林課 有機農業推進班班長 鮫田晋さんから説明を受けた後、実際に
有機野菜を生産されている宮川ご夫妻の圃場を見学しました。

○学習 「いすみ市のオーガニック給食の取組について」

講師：いすみ市農林課 有機農業推進班班長 鮫田晋さん



✓ 始まりは「コウノトリ」～目標は「環境保全型農業の推進」～

私たちがこの事業を始めたきっかけは、実は「学校給食をオーガニック
にしよう！」という意気込みからではありませんでした。

兵庫県豊岡市では、一度日本から絶滅したコウノトリを野生に戻す取り組みをおこなって
います。この豊岡市の事例はコウノトリの保護という環境面だけでなく、農家の所得向上や、
多くの人が地域を訪れるという大きな成果を生み出していました。これを見て「関東でも同
じような環境保全型の農業をやりたい！」と考えたのが、原点です。昔ながらの里山や里海
といった自然が豊かに残るいすみ市ですが、コウノトリが再び住める環境を作るには「農薬
を減らし使わない」、農業のやり方そのものを見直す必要がありました。

まず、市民や事業者、行政が連携して取り組むための協議会を 2012 年に設立しました。
目標は「農薬を減らした、あるいは使わない農業」を進めること。食の安全というミクロな
視点だけでなく「自然環境の保全」、「生物多様性の回復」という大きな目標に向かって、
まさにゼロからのスタートを切りました。

✓ ゼロからの挑戦と「失敗の 1 年」

当時のいすみ市には、本格的な有機農業をやっている農家さんがほとんどいませんでした。
皆さんに手探りで挑戦してもらったんですが、当時の私たちは技術が未熟だったため、田ん
ぼは草だらけになりました。初年は、今でいうと「失敗の 1 年」でした。

でも、私たちは諦めませんでした。モデルとした豊岡市に指導をお願いし、2014 年から本
格的に有機農業の技術を学び直しました。すると、長年悩まされた草がほとんど生えず、無
事に有機米の収穫に成功しました。技術が本当に大切だと痛感しました。

✓ 給食が農家とまちを変えた

行政としては収穫した有機米を、最初は「少しでも高く売ろう」と考えましたが、生産者の皆さんの思いは全く違いました。彼らは「子どもたちに食べさせたい」と言いました。市長も「それは良いことだ!」と即座に賛同し、2015年から学校給食に有機米を導入し始めました。この評判が、本当に良かったんです。

- **市民の声：**「この取り組みをぜひ進めてほしい」という好意的な意見が市役所にたくさん寄せられました。特に保護者は、この取り組みを強く支持してくれました。
- **農家の誇り：**苦労して作った有機米を子どもたちが食べてくれる。これが農家の皆さんにとって、大きな誇りと自信に繋がりました。
- **まちの広告塔：**この取り組みがメディアで大きく取り上げられたおかげで「いすみ市って、何かいいところだね」と移住を希望される方が増えました。広告宣伝費ゼロで、たいへん多くの効果がありました。

この手応えから翌2016年には、学校給食のお米をすべて有機米にするという大目標を掲げ、これも実現しました。

✓ 公共調達という大きな武器

なぜ、いすみ市のような小さな自治体が、短期間でこれほど大きな成果を出せたのか。それは、給食という「公共調達」の力を活かしたからです。有機農産物は、販売先を見つけるのが難しいという課題があります。でも、給食という確実な需要に連携することで、農家さんは「売り先の心配をせずに」有機農業に取り組めます。これが、有機米の産地化を短期間で実現できた大きな要因だと思います。

私たちはこの有機農業を、農家だけの問題ではなく、行政、市民、教育関係者など、「あらゆる分野の人と共同で取り組める社会運動」だと考えています。世界では、イタリアやフランス、韓国などでも、オーガニック給食や公共調達による有機農業の推進が、国や自治体の政策として進められています。また、オーガニック給食の成果は、食の安全だけではなく、農地の保全、生物多様性の回復、そして子どもたちの食育の場にもなっています。子どもたちの給食での残食が減るという変化も見られました。

この取り組みを通じて、子どもたちが大人になったときに、「どういう社会に暮らすか」「どんな食を選ぶか」という未来を切り拓くことができると信じています。

《参加者の感想》

◆有機栽培が進んでいるいすみ市でも、全体の中ではまだ2%程度(イタリアでも15%)と少ないことが驚きです。学校給食が生徒たちにも喜ばれているだけではなく、農家の経済的土台を支えている構造になっていることは、持続可能な農業のためにも重要だと感じました。

◆米の「いすみっこ」有機野菜の「いすみそだち」などのブランド化、公民協働による歩みは、本当に素晴らしいと思いました。

◆直に生産者の方から、これまでの努力、苦労について話をお聞きし、大変感動しました。大変有意義でした。



学習の後は、有機野菜生産者の宮川さんご夫妻から有機農業について、実際に農園を見せていただきながら説明をお聞きしました。

千葉県生活協同組合連合会会員一覧

生活協同組合コープみらい	千葉県本部所在地 千葉市中央区新田町 36-15 HP アドレス https://mirai.coopnet.or.jp/
生活協同組合パルシステム千葉	所在地：船橋市本町 2-1-1 船橋スクエア 21 4F HP アドレス https://www.palsystem-chiba.coop/
生活クラブ生活協同組合	所在地：千葉市美浜区真砂 5-21-12 HP アドレス https://chiba.seikatsuclub.coop/
なのはな生活協同組合	所在地：千葉市稲毛区長沼原町 678-2 HP アドレス https://nanohana-coop.net/
千葉県庁生活協同組合	所在地：千葉市中央区市場町 1-1 HP アドレス http://www.chibakenseikyo.or.jp/
千葉大学生生活協同組合	所在地：千葉市稲毛区弥生町 1-33 HP アドレス http://www.univcoop.jp/chiba-u/
東邦大学消費生活協同組合	所在地：船橋市三山 2-2-1 HP アドレス https://www.univcoop.jp/toho/
千葉商科大学生生活協同組合	所在地：市川市国府台 1-3-1 HP アドレス http://www.univcoop.jp/cuc/
千葉県学校生活協同組合	所在地：千葉市中央区中央 4-13-10 千葉県教育会館新館 6F HP アドレス https://www.jcgsk.com/
生活協同組合ちば住宅コープ	所在地：船橋市前原西 2-12-7 津田沼第一生命ビルディング 6F HP アドレス http://www.cjcoop.or.jp/
千葉県高齢者生活協同組合	所在地：千葉市美浜区真砂 5-21-12 HP アドレス http://chiba-koureiyou.sakura.ne.jp/
千葉県勤労者共済生活協同組合	所在地：千葉市中央区弁天 1-17-1 HP アドレス http://www.zenrosai.coop/
〈準会員〉東都生活協同組合	所在地：東京都世田谷区船橋 5-28-6 吉崎ビル 4 F HP アドレス http://www.tohto-coop.or.jp/
〈準会員〉常総生活協同組合	所在地：茨城県守谷市本町 281 HP アドレス https://www.coop-joso.jp/



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



チーバくん

ちばSDGs



千葉県生協連 HP はこちら



被爆・戦後80年
平和とよりよい生活のために



千葉県生活協同組合連合会

千葉市中央区中央 4-13-10 (千葉県教育会館 5F)

tel. 043-224-7753 fax. 043-225-3459

<http://chiba-kenren.jp/>



国際協同組合年

協同組合はよりよい世界を築きます

千葉県生活協同組合連合会は 2025 国際協同組合年に賛同しています